

会 議 録

会議の名称	西東京市図書館協議会 令和6年度第3回定例会
開催日時	令和6年11月15日（金）午後1時45分から3時45分まで
開催場所	田無第二庁舎4階 会議室3
出席者	委員：島会長、鈴木副会長、上田委員、吉田委員 山辺委員、長谷川委員、福士委員 欠席：高橋委員、湯浅委員、藤田委員 事務局：大庭館長、司城副館長、金本庶務係長
傍聴者	0名
議題	第1 諸報告 第2 令和5年度図書館事業評価（案）について 第3 その他
会議資料の名称	（前回資料「令和5年度図書館事業評価（案）」） 資料1 令和5年度図書館事業評価（案）まとめ 資料2 令和5年度図書館事業評価（案）各委員一次評価
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
○図書館長 定刻となりました。定足数に達しておりますので、只今から令和6年度西東京市図書館協議会第3回定例会を開催いたします。本日は、高橋委員、湯浅委員から欠席のご連絡をいただいております。（藤田委員欠席） 本日の資料は、次第と参考資料として、西東京市の教育、図書館だよりを配布しています。追加の資料として、会長にまとめていただいた令和5年度事業評価（案）を後ほどお持ちします。 それでは、以降の進行については、会長にお願いいたします。 ○会長 次第に沿って議事を進めます。議題1、諸報告について事務局からお願いします。 ○図書館長 報告事項として2点報告します。 1点目は、市職員採用試験について、前回の臨時会の際にお伝えしましたが、令和7年度4月1日付採用の試験が行われました。合格者の発表が11月13日にあり、	

図書館司書として5名が最終合格となりました。辞退者がいなければ、そのまま5名が採用されると認識しています。今回の採用試験は、司書の退職と退職予定を見込んで実施されたものです。西東京市図書館の運営にあたっては、今後も司書を中心とした直営による運営を継続していきたいと考えています。

2点目として、参考資料としてお配りした「西東京市の教育」の半分を使って西東京市図書館を使った調べるコンクールの表彰式のこと掲載されています。応募総数は、373件、その内、教育長賞として、小学校の部1作品、中学校の部1作品、合わせて2作品、優秀賞として、小学校の部4作品選出しました。受賞された方々を招き、表彰式を11月4日に開催しました。子どもたちが自ら図書館の資料や様々な情報を活用し、調べることによって、考え方を深め、判断し、表現する力を育んでいけるよう、今後も継続して実施していきたいと考えています。

「西東京市の教育」にはもう1つ「世界のバリアフリー展」を掲載しています。今まで継続してきている図書館事業の他にも、新たな取組や図書館事業のPRを継続していきながら、市民の皆さまに周知できる内容を掲載していければと考えています。

以上となります。

○会長

ありがとうございました。

2点報告がありましたが、何か質問、感想があればお願いします。

○委員

図書館を使った調べるコンクールに多数の応募があることは大変良いことだと思います。受賞された方を見ると本町小学校の方が4名で中学校の方が1名となっており、悪いということではなく、学校に偏りがあるように感じました。何か理由、原因があるのでしょうか。

○図書館長

小学校、中学校の受賞者のうち、小学校の受賞者に学校の偏りがあった理由について説明します。まず応募数として、小学校の部が363、中学校が10ありました。応募された数によって全国大会に推薦できる数が決まっています。そのため小学校の部が5、中学校の部が1となったところです。4名とも本町小学校である点は、図書館を使った調べるコンクールに対して各校の学校司書の方が協力していただいたなか、他の学校に比べて熱心に取り組んでいただいた結果があると推察しています。また、受賞者以外にも優秀な作品は多くありましたが、コンクールの審査基準、ポイントをおさえた指導があった結果もあると考えています。

○委員

学校司書の取組が影響したという認識は、そのとおりだと思います。多くの学校の方にコンクールに興味を持ってもらえると良いと思いました。

○委員

全国の学校図書館協議会でも学校図書館に力を入れる学校と、そうではない学校

もあるという話があり、図書館を使った調べるコンクールへの受け止め方や子どもたちへの伝え方も先生方によっても違いもあり、格差とまではいえませんが、もう少しコンクールについて広めてほしいと思っています。

○委員

まだまだ広げていける余地があるということですね。

○副館長

本町小学校に限らず、今年度のコンクールについては、財団が主催している研修に学校司書の方が何人か参加していますので、学校図書館の学校司書の方々には浸透してきていると思います。また、学校全体で取り組んでいただいた学校もありますが、図書館を使った調べるコンクールという基準でいえば、書誌事項を記載する必要がありますが、そのような記載がない作品もあります。しかしながら、学校の自由研究としては、先生方にも認められるような優秀な作品もありました。来年度以降は、コンクールの審査基準などが校長会、副校長会で知られるようになれば、また違った動きがあるのではないかと考えています。

○委員

学校としては、カリキュラム上「総合的な学習の時間」の、「探究的な学習」として位置付けられると思いますが、調べ学習とは別の形で調べる学習コンクールがある訳で、正課の調べ学習と関係付けられるという考え方を先生方が持てるのか、どうか重要だと思いました。

○会長

他になれば私から、来年度の図書館司書採用が5名あったこと、大変喜ばしいことと感じています。5名の方々が来年4月に元気に来ていただけることを願っています。大いに期待しています。

他になれば、議題2に入る前に、10月25日の昭島市民図書館に視察した委員に感想、意見をいただければと思います。

○副会長

古い学校を使った建物であることは聞いていましたが、実際に行って、広い敷地の中に校舎がそのまま残り、校庭だった場所に図書館が建っていました。アキシマエンスという名前がついて、いわゆる図書館だけではなく、貸出しのスペース（部屋）のような公民館的なものがあり、カフェが一緒になっていて、市民の財産にしようとしている建物だと思いました。

一方で、図書館の書架の並び方は円心状というか、独特で、どこに何があるか、わかりにくい配置でした。子どもの本は作者別でなく書名のあいいうえお順で、書名がわからないと探しにくいと思いました。本の配架のボランティアをお願いしていると聞いていましたが、図書館職員の方でも本の在処を見つけるのに苦労されていとのことで、図書館を使う現場の人の意見を反映しないと、見た目は素敵でも使い勝手がよくない状態になってしまうことがあると感じました。

郷土資料として、アキシマエンス（くじら）や出土したものがまとめられてい

て、図書館の横にあるというのは、郷土を知るという意味では大変良いと思いましたし、西東京市の郷土資料室は普通の学校の教室を使っているような所ですが、新しい建物ができる時にコラボレーションするのは良いと思いました。

○委員

複合施設ということで、国際交流教養文化棟という名前が付いて、多様な機能を盛り込んでいました。図書館だけではなく、郷土資料室、市民ギャラリー、シアター、ライブラリーカフェ、公民館的スペースとして講習・研修室があり、そのような機能を一箇所にまとめたということで、シナジー効果があるのか、どうなのかが評価のポイントだと思いました。

図書館映画会というものを頻繁に開催されているというところを見ると、シアターの機能も抱えているので、やり易さがあると思いました。あと、郷土資料室が一体だということですが、郷土資料室との連携で地域資料との連携が取れるのか、どうなのか、という点が気になったところで、運営が指定管理者になっていることで、従来の地域資料の収集や提供する体制が連携されているのか、会長から質問がありましたけれども、そこまで深いところまでわからなかったのが、気になったところです。そのようなことを考えると郷土資料室と連携しているということは、ある意味では、機能を指定管理者にお任せする体制になるのではないかと感じたのが1点目です。

もう1点は、サードプレイスの思想を取り入れたと対応された昭島市民図書館の担当課長はおっしゃられていました。部分的にティーンズの学習室にサードプレイスの考え方が活かされていたのですけれども、全体として交流広場のような枠組みを考えているようですが、多摩市立中央図書館でも感じましたが、思想は取り入れたところまではいっているものの、実際にそれが機能しているのかということと言うと、まだ本格的には実現されていなのかなと思いました。市民の交流の広場として、あるいは何か創り出す広場としてということまではいっていないと思いました。

すごく良いと思った点は、2階の一角にインターネットやオンラインデータベースの機能を集中させて、レファレンスや研究個室を集めている点です。市民が何か調査、研修をしたいという時に、そこに行けば、ある程度サポートが受けられるというわかりやすいゾーニングをしているように思いました。その時だけなのかわかりませんが、そこに職員が3名いて、レファレンスの方に2名、オンラインデータベースの方に1名という配置で、職員の手当も厚いような運営をしていると思いました。

○委員

敷地があり、基地の街ということもあり予算もあって、お金をかければ、このような様々な取組ができると感じました。例えば、保育も対応していましたし、ミニコンサートのようなことも開催していました。従来の静かな図書館というイメージよりも、何か楽しいことがあるから行ってみようと思わせる図書館の造りというのは、これからの図書館在り方の一つとして考えても良いと思いました。複合施設ということで恐竜のいろいろな物が見られ、ミニシアターもあって、かなりお金をかけていると思うのですが、今後、5年、10年同じ展示では来る人に飽きられてし

まうので、魅力的な場をどのように持続させていくのか、という努力を見てみたいと思いました。

○委員

各委員が言っていたとおり、総合的な文化施設という位置付けで運営されているという面では、神奈川県大和市のシリウスが似た考え方で造られていると思います。いずれも指定管理者制度で運営されていて、民営になっていくと、どちらかというとサービス重視のような感じになっていくと思います。ライト層には使い勝手が良いように、見栄えが良いものを提供していくのだろうと思います。

一時預りは、私の現況ではありますが、子どもが2人いて、一緒に行っても自分が書籍に触れる、調べ事をするというのは現実的ではないので、そのような方々には使い勝手が良いと思いました。一方で、伝統的な図書館の機能を連続的につないでいくという所で見ると、サービス重視に寄っていくと、切り捨てられがちであったりするかもしれないので、双方を上手くハイブリッドしながら、運営していくことが考えられると直営であっても、指定管理者制度であっても、上手い落としどころを見つけられると、より市民にとって、サービスも伝統的な図書館機能も両方とも良いものができるのではないかと思います。

○委員

追加でお話させてください。

自動書庫という設備について、全体のリニューアルをきっかけにして導入したということがありました。また、アウトリーチサービスとして、移動図書館をまだ使っているということで、週1回で駅前図書館というのを夕方の時間帯に設けているということで、いろいろなアイディアが出されています。指定管理者制度の図書館が様々なサービスができるということになると、一般の方が見ると、指定管理者が良いと恐らく思われるのではないのでしょうか。そのような状況がある一方で、西東京市では、司書の職員を採用し、直営で図書館を運営していく考えを持っているということなので、直営ならば、どのようなサービスが安定してできるのか、指定管理者制度では華々しい良いサービスができて、サービスの面ではなく人事管理の面で厳しい問題もあるということは確かだとわかっている訳です。守谷市の例でも指定管理者制度から直営に戻していますので、そのような意味でも総合的に見ていく必要があると思いました。

○会長

私の方から、地域資料が気になっていました。昭島市民図書館は、以前、地域資料を丁寧に収集されていました。それらは今でも利用できるということで安心しました。

○委員

当日、発熱により参加できませんでしたが、各委員の意見を聞き、地域資料について、一つ言わせてください。

地域資料については、行政資料も含めて図書館が責任を持つ、スタンスがほしいと思っています。また、そのスタンスを持ち続けてほしいと願っています。

○副館長

ここ半年から1年の間で昭島市民図書館に何人か視察に行っています。私も2回目になります。何故、そのような取組をしているかというところ、図書館計画ができて、次の図書館は、どのような図書館とすべきなのか、と言った時に、自分たちは、どのような図書館を考えていくのだろうかということを、今の若い職員がいずれ中心になっていき、図書館を建てる時、考えてもらうために取り組んでいます。

委員の意見のとおり、サービスなのか、伝統的な図書館がメインの部分なのか、という面を若い職員に一番、考えてもらっているところですが、図書館に5年、10年勤めていると、20歳代でも頭の中は従来の図書館のスタンス、本が中心であるという考え方を大切にするようになります。現場から少し離れている者だと、もう少しフラットに、このようなサービスはどうか、様々な図書館で言われている真新しいサービスにチャレンジするのはどうかかなど、気軽に言うと若い職員を含めて反発があります。若い職員を含めて、従来型の図書館が好きな職員が多いことを前提として、先進的な図書館を視察していく上で、求められているのは何かというところを勉強してもらい、視察を繰り返していくなかで、良かった点、悪かった点を挙げてもらっていく考えです。

今回の昭島市民図書館では、各委員から、いくつか指摘のあったサービスの話や書架の並びの話について、見てきた職員は気付いていて、書架の並びは独特だったとか、造りの良さは皆が言っていて、造りの良さと本棚の並びが上手くいっていないのは、どうしてなのかというところを同じ状況になった際に、解決できるようにしなければならない、というところを共有していきたいと考えています。来るべく10年後に備えて、視察によって得られた知見の記録を残していこうと考えていますが、職員だけではなく、今回の視察における図書館協議会委員の皆様の意見も使わせていただき、5年後、10年後に活かしていこうと考えています。

○会長

それでは、議題2、令和5年度図書館事業評価（案）について、入りたいと思います。資料が2つあり、中黒の点々がある方が各委員からあった意見、評価を基本方針ごとに並べたもので、それらをまとめたものが、もう1つの資料になります。ゴシック体の文字が3行ほどある方です。

資料の方を読みながら進めます。

（「基本方針1 資料の収集と保存の充実」の評価箇所の読み上げ）

○副会長

マルチメディアページに記している「児童生徒への理解をさらに促進して」とありますが、児童生徒が理解できるよう働きかけるという意味では、少し引っ掛かりました。

○委員

児童生徒にマルチメディアページの存在を知ってほしいという意味と、学校教育の中で利用することが考えられるということで書いていますが、とってしまっ

構いません。

○会長

では、「児童生徒への理解をさらに促進して」の箇所はとることにします。また、「ひばりが丘図書館に排架したこと」の「排架」は配る方の「配架」もありますが、共に図書館用語なので「ひばりが丘図書館の書架に移動したこと」に修正します。

他にありますか。

次の基本方針2に入ります。

（「基本方針 2 すべての市民に活用されるために」の評価箇所の読み上げ）
何か意見などありましたら、お願いします。

○副会長

多文化サービスに記している「外国人親子の参加者数増を視野に入れ」の箇所で参加者数増に違和感があります。また、「ホスト社会の多様性理解を」からの文章が長く、どこかで区切るか、違う表現にした方が良いと思います。

○会長

外国人親子の箇所は、「外国人親子の参加を増やすことを視野に入れ」に修正します。「ホスト社会の多様性理解を」の箇所は、どのように修正しますか。

○副会長

意味がわからないということではなく、長くなっているので、ホスト社会の書き方も含めて、受け入れる側の話だとわかるよう修正すれば良いと思います。

○委員

「受け入れる側の社会」で良いと思います。ここは、図書館が外国人親子の参加者が少ないことを問題だと思っているようですが、西東京市の人口の2.9%で、更に子どもがいる家族は更に少ないので、直ぐに増やすのはできることではないと思います。多文化サービスは、受け入れる側の社会に有効だということが書かれていれば良いです。

○副会長

多文化サービスに興味を持ってくれる方々が増えることで、寛容度が上がるということですね。

○会長

それでは「ホスト社会の」をとり、「外国人親子の参加を増やすことを視野に入れつつ、多様性理解を促進し、受け入れ側の寛容度を上げるため、」として「にも」をとった表現に修正します。

○副会長

成人、地域・行政資料、レファレンス担当で記している「図書館資料やデータベ

ース等活用講座などの開催など精力的に活動」とありますが、「などなど」になっています。事業名称の方は大丈夫でしょうか。

○会長

事務局も事実と異なる場合は、言ってください。

○委員

「などの開催」をとって「図書館資料やデータベース等活用講座など精力的に活動」にすれば良いと思います。

○副会長

全体的ですが、図書館計画の策定時にも修正していただきましたが、「分かる」は漢字ではなく「わかる」ひらがなにすることが現在、普通のことなので修正してください。

○会長

わかりました。修正します。

他にないようでしたら、基本方針3に入ります。

（「基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する」の評価箇所の読み上げ）

何かありますか。

○委員

「冊子体資料」とあり、意味はわかりますが、よく使われる用語ですか。

○委員

冊子体ではない資料はあるのですか。

○委員

図書館ホームページで情報を更新しているのと対比して、実際の資料という意味で冊子体と表現しています。評価というよりは、今日も書架を見てきたのですが、2連くらい「縁」の資料が置いていところが全集の本が手前にあり、隅にあるイメージがあるので、もう少し目立つよう工夫した方が良いと思い書きました。

○会長

「縁」の文献リストがあり、その目録のことを言っていると思いました。では、「縁」の資料又はコレクションという意味であれば、どのように直しますか。

○委員

コレクションが良いと思います。

○会長

コレクションに修正します。

また、「館内でももう少し分かりやすい（目立つような）展示や排架を工夫できる」と記している「や排架」をとります。

○委員

もう1点、文全体の段落の並びについて、最初に地域行政資料のことがきて、次に「縁」がきて、また、最後に地域行政資料のことになっています。最初の「地域・行政資料コーナーを利用しやすく改善されたことを評価します。」の後の「今後もさらなる地域情報」の文書を取り、最後の段落を持ってくれば良いと思います。

○会長

最後の「さらなる構築に期待したい。」の段落を前に持ってきます。

次の基本方針4に入ります。

（「基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援」の評価箇所の読み上げ）

何か意見がありますか、電子図書館の箇所は、意見が若干分かれていますが、このままで良いですか。

○副会長

電子図書館は、多くの予算をかけて導入したものですし、子どもの本を中心に電子書籍を進めていくというのが西東京市図書館の方針で良いと思います。市教委の方とお話する機会があった時、私が知る家庭に1冊も本がないことを話した時、「タブレットはどうですかね」という言葉が出てきたので、驚きました。本が沢山あるなかを選択肢として電子書籍を使うのは全く問題なく良いと思います。

家庭で1冊も自分にとって大好きな本を持つことなく、本が身近なものではないまま小学生になった子にとって、学校図書館は本と出会う大事な場です。学校図書館に豊かに本があって、本を手にとって、好きな本がどれか、重さや色や手触りも含め身体で感じるのは、その子が将来、自分に必要な本が選べるようになるために大切なことだと思います。子どもが市の図書館にひとりて来るのはむずかしいので、どの子にも本を届けるには学校図書館が一番大事な場所だと思います。子どもが自分で行ける学校図書館や児童館で、その子に合った本をその子を知る大人が手渡ししてほしい。子どもが小さければ小さい時ほど、大人と子どもと一緒に本を介して過ごす時間が大事で、それは読み聞かせ以前に、豊かに言葉をやり取りする機会があることが大事なので、電子書籍があれば大丈夫という考え方にはならないでいただきたい。電子図書館が便利なものだというのと別に、本と子どもが直に出会う機会を豊かに与え続けるのが大人の役割だと思います。

○委員

質問があります。

子ども電子図書館に関する内容に「不読率」という言葉がありますが、読書離れと同じ意味ですか。

○副会長

何かの調査で1か月の間、1冊も本を読まない割合だと聞いています。

○会長

全国学校図書館協議会が5月の1か月に子どもたちがどのくらい本を読んでいるのか調査しています。その結果において、1か月に0冊というのは、本を1冊も読まない不読者層の数値が出ていて、高校生だと50%くらいで推移していて、小学生が10%、中学生が15%から20%で推移しています。国が子ども読書活動推進基本計画を策定していて、その計画のなかで不読率の低減を謳っています。その言葉を受けたものです。

○委員

国の子ども読書活動推進計画に書いてある国の政策なので、そのままの表現で良いと思います。

○委員

言葉として違和感はないので、そのままが良いと思います。

○委員

不読率の後に「という意見がありました。」とありますが、図書館協議会での意見なのか、一般的な意見なのか、わかるように書いた方が良いでしょう。

○委員

図書館協議会がこの評価をしているので、協議会内であった旨を書くべきだと思います。

○委員

結論については、その後の「サービスの定着に向けた継続的な工夫」の段落になるので、その前の段落は、いろいろな意見がありましたという書き方で良いでしょう。

○委員

基本方針それぞれの文書量が多くなっても大丈夫ですか。

○会長

事業評価は、紙ベースになるのでしょうか。

○副館長

掲示、掲載するので、紙ベースになる前提です。基本方針は1から6までの6項目なので、そこまでの量にはなりません。

○図書館長

簡潔にという意味は、分かりやすくという意味もあります。重複ではなく、長くならないという意味では、丁寧に書いていただく分には構いません。

○会長

基本方針4で他に何かありますか。

○副会長

最後にある「秋には市内の各地で様々なイベントが開かれています。「青空おはなし会」なども検討して頂きたい。」は、良い季節なので外で実施しても良いかなと思い、書いただけなので、全体を見るとなくても構いません。

○委員

その一文をとるのであれば、残る最後の行「「おでかけおはなし会」の行き先や開催時期については十分な検討をしていただきたい。」を「わらべうた講座など」の段落の次においた方が、内容的な近さという意味では良いと思います。

○会長

そのとおり修正します。

「本町小学校deビブリオトーク」の報告書のようなものは、多分学校は何か出しているとは思いますが、図書館から何か出ますか。

○副館長

多分、図書館ホームページに掲載していると思いますが、イベントの報告のページに掲載するはずです。

○会長

内容としては、図書館職員が学校に行って、職員がブックトークの実演をして、それを子どもたちが参考に、みんなもブックトークする。好きな本の紹介をし合うというイベントなので、学校側から見ると、このイベントが子どもの読書のきっかけづくりになると思いますし、有効な手段になれば良いと思います。

○副会長

前回の高橋委員からの話では、大人や先生が言っても本を読むようにならないけれど、友だちが言っているならば読んでみようとなる、という話があったので、楽しみな試みだと思います。

○会長

では、基本方針4を終わります。

次に基本方針5に入ります。

（「基本方針5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上」の評価箇所の読み上げ）

「まちなか先生」の評価で、プログラムが周知されていない旨が書かれていましたが、そのようなことがあるのでしょうか。

○副会長

「まちなか先生」は図書館だけでなく、いろいろな部署が関係していると思いま

すが、継続して来てほしい学校があるのかもしれませんが。

○委員

前に年間の「まちなか先生」の活用一覧を見たことがありますが、図書館は多かった記憶があります。公民館と図書館は「まちなか先生」への出番が多いと思いますが、どうですか。

○委員

「連携方法をさらに工夫して欲しい。」までは私が記したのですが、「図書館関係がよく利用されている」の箇所は違います。

○副館長

「まちなか先生」の中では、図書館が行っている内容は人気があると思います。年間に行っている回数から図書館職員の負担は、大きいということはありません。一方で公民館は、図書館よりも職員数が少ないなか、「まちなか先生」に参加していて、負担は大きいと思います。

○委員

下野谷遺跡関係の事業は、社会教育課も少なからず参加していると聞いています。

○副館長

人気講座には子どもたちは集まるので、どこの部署も学校に入っていくこともあり、大変な労力を要しています。

○副会長

部署に多くの職員がいて、「まちなか先生」に参加している訳ではなく、普段の業務に加えて、参加されているので、大変なことだと思います。

○会長

「一方で、図書館関係が」以下はとってしまいます。

それでは基本方針5を終わります。

基本方針6に入ります。

（「基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築」の評価箇所の読み上げ）

何か意見等があればお願いします

○副会長

「費用効果の検証」ではなく「費用対効果」です。

○委員

研修の話がそれぞれ段落に分かれて並列して書かれています。整理して書くのは難しいとは思いますが、大丈夫ですか。

○図書館長

1つの項目の中に全く矛盾する言葉が入っている訳ではないので、大丈夫だと思います。

○会長

基本方針6の箇所については、是非とも研修を充実してほしいということに尽きると思います。研修によって一人一人の職員が力をつけて、組織力が上がっていかねばいけないと思います。

○委員

1つだけ前の基本方針3の箇所で意見があります。

先ほど昭島市民図書館の感想を各委員からあった際、郷土資料との絡みがあったと思います。社会教育課の所管となる郷土資料室に時々呼ばれて仕事で行っているので事情はわかっていますが、担当者が頑張って写真や資料を収集し、データを構築しています。図書館でも山本昭六氏の写真をデータベース化していますので、基本方針3に書き込むということではなく、社会教育課との連携の視点を持っていたほしいと思います。

○委員

基本方針3に書き入れてみてはいかがでしょうか。

○会長

各委員からの意見を取りまとめる際に、委員から意見があったのですが、目標の中に入ってこない内容のため評価の対象に取り上げませんでした。

○委員

目標や計画への評価なので、その中に入るのかということですね。

○委員

「地域行政資料については、市立図書館が責任をもって収集・保存・提供する責務があります。さらなる構築に期待したい。」と記しているので、来年度に向けた構築の中に社会教育課との連携の視点を忘れずに考えていってほしいという意味です。

○副館長

現場は忘れていないので大丈夫です。

○会長

特に社会教育課と郷土資料室との連携は必須ですという意見ですが、各委員いかがでしょうか。

○委員

入れるのであれば、「社会教育課との連携も行いながら、更なる構築に期待したい」くらいなら問題ないと思います。

○会長

今でも連携しているでしょうから、「連携しつつ、更なる構築を期待したい」でどうでしょうか。

○委員

良いと思います。

○会長

議題 2 は以上となります。この後のスケジュールは、どうなっているでしょうか。

○副館長

会長の方で意見等を反映していただき、事務局に送ってください。

○会長

いつまでに送れば良いですか。

○図書館長

12月にある教育委員会に事業評価を報告しますので、11月22日までをお願いします。

○委員

文体について、である調とするのか、ですます調とするのか、そのままにするのか、また、「いただきます」など漢字とひらがなが混ざっていますが、どうしますか。

○会長

ですます調で統一して、取組やわかるなど漢字、ひらがなも全体で統一します。11月22日まで事務局に送ります。

○図書館長

事務局から各委員へお送りします。

○会長

次の図書館協議会が1月終わり、1月31日ですが、何を議題にするのでしょうか。

○副館長

どちらかで来年度の話、どちらかで来年度の事業評価の方法を検討していただき

ます。図書館計画が変わって、初めての事業評価となりますので、評価のスタイルを変える旨を年度当初の会議で伝えたと思います。

○委員

数値目標が入るということでしたか。

○副館長

そうです。

○会長

図書館協議会の任期はいつまででしたか。

○副館長

今年度までとなります。

○副会長

来年度、子ども読書活動推進計画の第5期策定になると思いますが、その会に図書館協議会の委員が入るという決まりがあると思います。

○図書館長

はい、例年、いつも参加していただいています。

○会長

議題3、その他で何かありますか。

○図書館長

その他で来年度の図書館協議会の開催回数について相談があります。昨年度は図書館計画の策定の絡みもありましたが6回開催しています。来年度は、例年臨時会を2回開催しているのを1回として、回数が5回あたりでも大丈夫なのか考えており、ご意見をいただければと思います。理由としては、来年度、お話のあった子ども読書活動推進計画の懇談会が9回、起草委員会が6回、全15回予定しており、図書館協議会の委員の方が参加することから、年度中に多数の会議に参加することになるため、1回臨時会を減らす代替として、図書館協議会での視察を例年1箇所のところを2箇所とする案を考えています。

来年度、前から要望のあった浦安市中央図書館に加えて、新中央館の構想を作り上げていくということを踏まえて、中央図書館を建替えた事例のある自治体への視察を1箇所選定していただき、視察の場所を2箇所とする件を考えていただければと思います。

○副館長

過去から理由は定かではありませんが、定例会を4回、臨時会を2回の6回開催しています。昨年度も考えるべきではあったのですが、過去の子どもの読書活動推進計画や図書館計画の策定時に他の会議に出ていただくなか、6回開催してきたこと

は良かったのか、どうかということもあり、また、新中央館の構想に絡み視察でいろいろな図書館を見てもらい、ご意見をいただきたいということもあります。計画の策定に関わる他の会議に参加していただく、視察の回数を増やしたい場合は、臨時会の回数を減らし、何も無い時は、通常の6回とするという使い分けはこれから先考える必要があると思います、今回、初めてお話しています。

○会長

定例会を4回、臨時会を2回の6回を5回にして、臨時会1回分を視察とすることですが、どうでしょうか。

視察ですが、近場ではなく、離れていても先進的な取組をしている図書館を見に行きたいと思います。

○副会長

埼玉県小川町の図書館を視察した時は、複合施設（3館合築）をどうするのか、という時に視察に行った記憶があり、後、行田市にもバスで行き、都内の図書館とは違うという記憶があります。

○会長

千葉市はどうでしょうか。20年前くらいの中央図書館ですが、規模的に大きい図書館でいえば参考になります。

○副会長

委員から話のあった大和市のシリウスはどうでしょうか。

○図書館長

職員の方でも図書館協議会とは別に視察していく予定になっていて、シリウスは職員が視察しています。

○副館長

1970年代以前に建てられた図書館は、建て替えを迎えているので、視察する先は多く出てくると思います。千葉県にある自治体は、図書館に力を入れているので、視察する候補としては有りだと思います。

○会長

では、千葉市中央図書館を第1候補としてください。

時間となりましたので、協議会を終わります。

ありがとうございました。